

# 山王台だより 6月号



横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

## 「旬」を見極める

校長 志田 一彦

校庭の木々の緑が日ごとに色を濃くし、初夏の日差しに輝きを増す季節となりました。店頭にはこの時期の旬の食材が並び、初夏の味覚を楽しませてくれています。

給食室から各学級に配布される「パクパクだより」にも、給食で使われている「旬」の食材が紹介され、子どもたちの食への関心を高めています。

「旬の味」の「旬」には、「野菜や魚、果物などの最も味のよい時期」という意味があります。旬の時期に食べるからこそ、最もおいしく食べることができ、栄養価も高いのですが、今は、いろいろな食べ物が季節に関係なく手に入り、旬の時期に食べる価値も薄れがちです。いつでも食べることができるという便利さは感じますが、本来その食材がもつ味や臭い、食感などは、旬の時期に比べると、どこか物足りなさも覚えます。やはり、旬の時期に食べるからこそ、その効果があるはずです。

さて、「旬」という言葉は「最も味のよい時期」という意味の他に「物事を行う最適の時期」という意味にも用いられます。これを子どもの教育に当てはめて考えると、「その時期、その時期に身に付けるべきことをしっかりと身に付ける」ととらえることもできるでしょう。

子どもたちの「よさ」や「可能性」を引き出し、将来の幸せにつなげていくためにも、小学生の時期には、「基本的な生活習慣」や「確かな学力」を身に付けることの大切さを感じます。

これは、挨拶をすることや善悪の判断をすること、ルールを守ること、また、少しのことではくじけないたくましい心や自分で考え、解決していく力など「生きていく上での土台となる力」と言ってもいいでしょう。この土台がしっかりとしていれば、子どもたちは多少の困難なことに出会っても、自分の力で将来の幸せにつなげていくはずで

私たち大人は、大人の責任として、学校や家庭でこれらのことを子どもたちにきちんと身に付ける必要があると思います。そのためには、子どもたち一人ひとりの「旬」を見極めることが大切です。「その子が、今、身に付けるべきことは何なのか」そのことをしっかりと見極め、子どもの成長を願いつつ、子どもに寄り添いながら、また、時には毅然とした態度で子どもたちを導いていきたいと考えています。

### 5月27日 山王台小学校創立記念日

山王台小PTAが、今年も創立記念菓子を用意してくださいました。今年はきれいなかわいらしい飴をいただきました。ありがとうございました。

## 音楽朝会…ぜひ、ご来校ください。

6月26日（月）8時20分より